

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和8年3月分）

【製造業】

- 1月の鉱工業生産指数は前月比0.5%上昇となった。ヒアリングでは、大手自動車メーカーが生産量を増加したとの声と、中東向けの自動車の減産が決定したとの両面の声が聞かれた。また、石油由来製品の供給に関する不安の声が多い。
- 地場産業は、1月の鉱工業生産指数は木材・木製品、食料品、家具で下降した。ヒアリングでは、OEMの受注は堅調との声が聞かれる一方で、中東情勢の影響で、仕入れ先の価格上昇が予想されるとの声や、原燃料の高止まりと賃上げ分を価格転嫁すべく価格交渉を始めるといった声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、2月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比24.1%増加となった。ヒアリングでは、バブル期の機械が30年経ち限界に達しているなか、設備再投資の可否が事業継続可否の判断になるとした声も聞かれた。また、物価高により導入を積極的に行えず、見送るケースもあるとの声があった。

【個人消費】

- 2月の販売額は、全体で前年同月比3.1%増加となった。ヒアリングでは、キャンペーンの実施により売上が伸長し、歴代5位の客数及び年度累計で過去最高の客数になったとの声が聞かれた。一方で、少しずつ価格を上げている店舗が増え、その結果客数の減少を不安視する声も聞かれた。

【観光】

- 宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 2月の制度融資実績は金額で3ヶ月連続減少となった。自治体の制度融資で利上げが決定し、利上げ前の駆け込みで融資件数が伸びている。また、金利上昇局面で、事業者が徐々に利息負担の重さを感じ始めている印象があるとの声があった。

【雇用】

- 2月の有効求人倍率は1.41倍と前月比同率となった。ヒアリングでは、新卒採用について成功報酬型の採用サービスと契約するなど順次進めているが、引き続き難しいといった声や、従業員の高齢化が進んでおり、偏りをなくしていくことが当面の課題との声が聞かれた。

【景気動向】

12月の景気動向指数（一致指数）は前月比0.2ポイント上昇、2月の中小企業の景況感と同4.0ポイント上昇となった。